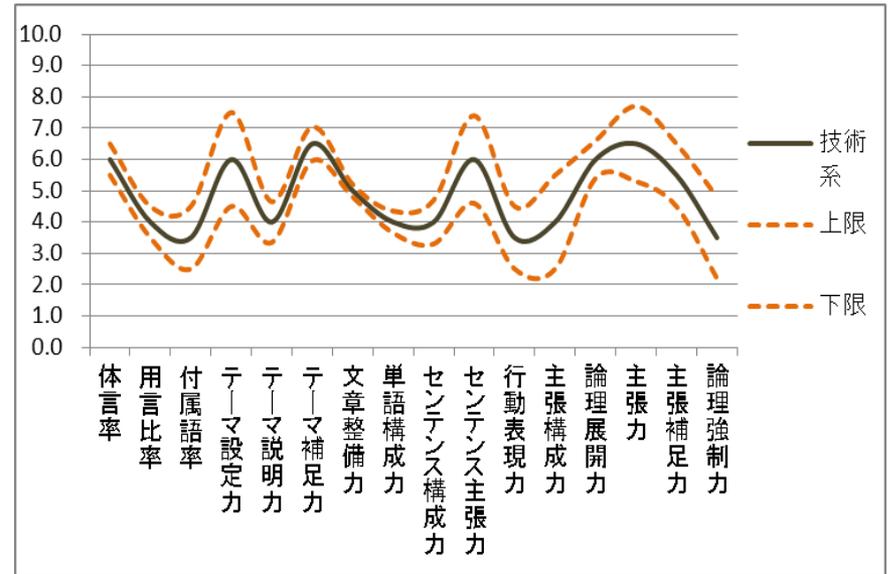
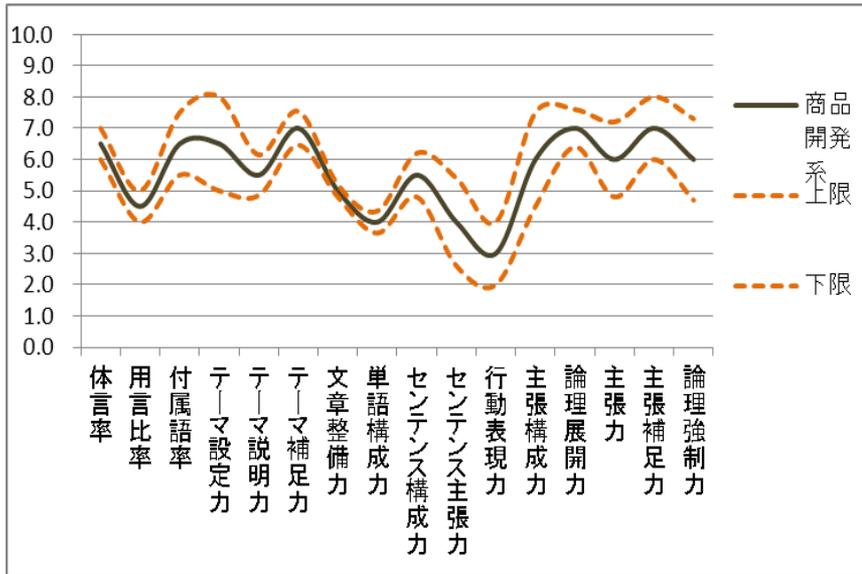


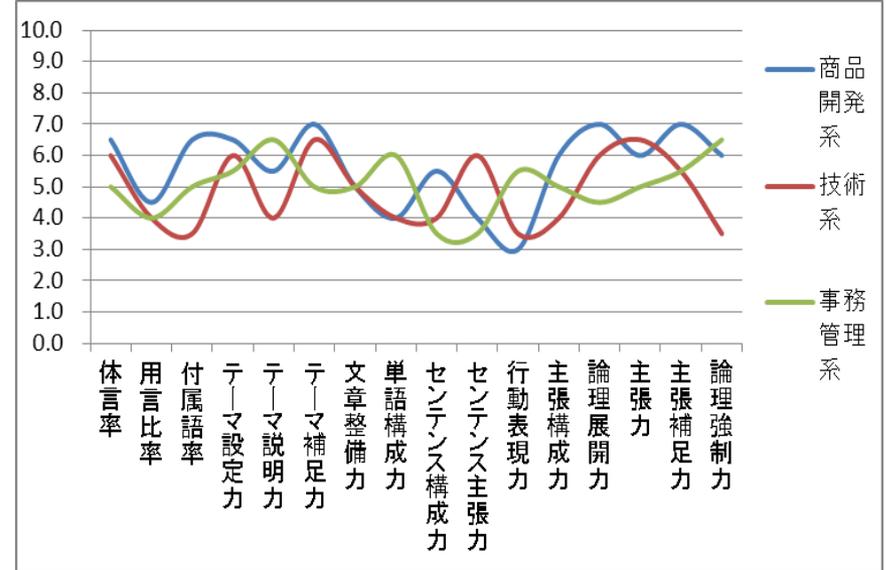
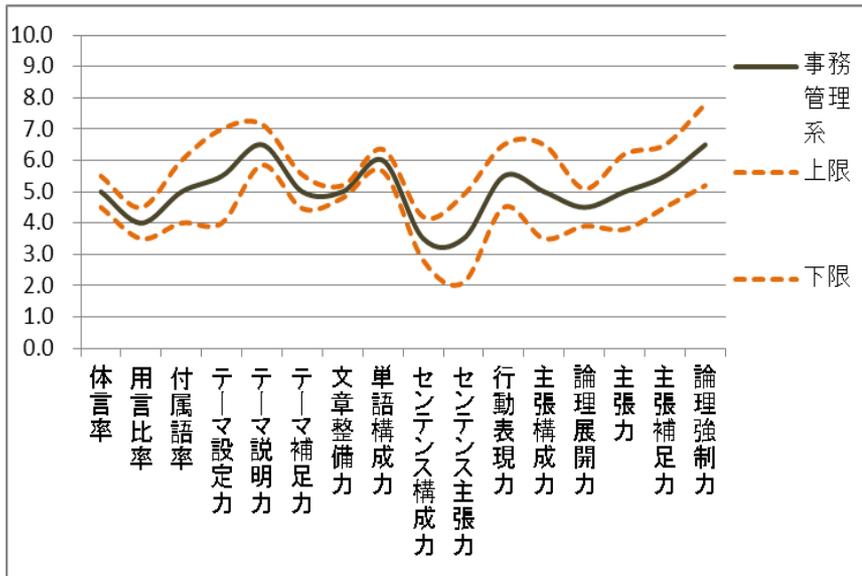
内部系職種1



考える材料を比較的多く持ち、材料に対して深堀は少なく、持っている材料の組み合わせとその延長線上で、モノを創り上げていく特長がる。また、創ったモノに対しての要因にこだわりを持っており、そのモノについての説得性が強くなる特長がある。(マーケターなどもこの分野に含まれる。)

知識を中心とし、その知識に対してこだわりがあるのが前提である。その知識を使って、問題や課題の項目について解決しようとする特徴がある。自分が創りだしてしまったモノについて、または、自分が持っている知識や技術について、他の人に説得しようとする興味を持っていない。研究職なども含まれる。(ここでは、一般的に言われている技術系全てを含んでいる。)

内部系職種2



業務のコントロール、業務を推進していく上での手続きやルールについて理解し、業務の円滑な推進の為に、他に対して積極的に働きかける性質を持っている。また、説得性が強く、強引さが現れる時がある。

商品開発系、技術系はリーダーになりえるが、事務管理系はリーダーには適さない。技術系もマネージャーとしては適さない。もちろん、職種の範囲で全体をまとめていく行為は行われるが、その特徴を強く現さないだろう。リーダー等で考えられる強さは表れないとするが適切である。

内部系職種は目的が明瞭であって、目的に向かって進めていく行為に対して長けている。小さくまとめていく、確実に進めていくマネージャー、リーダーとしては多いに力を発揮するはずである。他職種として考えるよりは、それぞれの分野での専門性を高める方が適している。